令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出　■10月2日(木)提出　■3月13日(金)提出

学校番号	35	橿原　高等学校	課程	全

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する。 四国カルスト等の自然資源や神楽に代表される伝統文化を生かした学習を通して、郷土愛や課題解決力を育み、地域社会に貢献する人材を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ・郷土の自然を愛し、地域に貢献しようとする生徒を募集します。 ・目的意識を持ち、自らの成長と自己実現に向かって努力を続ける生徒を募集します。 ・部活動や生徒会活動に積極的に取り組む生徒を募集します。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ・地域の伝統と文化を愛し、地域や社会に貢献する志と行動力を持った生徒を育成。 ・自らの進路実現およびキャリア形成に向け、主体的で協働的な学びを続ける生徒を育成。 ・互いの個性を尊重し、豊かな感性と社会性が備わった生徒を育成。		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ・コース別のカリキュラムや習熟度別授業・遠隔授業によって、幅広い進路選択と適性に応じた指導を行う。 ・総合的な探究の時間、対話的な授業、学校行事を通して、探究力・思考力・コミュニケーション力を高める。 ・地域資源や外部人材を活用し、多様で自分の在り方生き方を考えるキャリア教育を行う。

学校関係者評価

【学力の向上】 評価 【 B 】

将来の目標に向かって勉強に取り組む生徒が増加していることは評価できる。幅広い学力層の生徒を受け入れており、授業を行う教職員にもご苦労があると思いますが、反対に伸び代もあると思います。引き続き学力向上への取り組みをお願いします。C層以上の生徒の増加も1年生は目標を達成できている。その他2つの目標も評価結果の説明から、目標をほぼ達成として良いと思う。寮生には毎日一定の学習時間や読書、議論を行う習慣の定着を。(具体的な目標数値の設定とチェエク、検証)1年生の5月末には卒業後の進路目標の設定とそれに伴う行動計画を。

【社会性の育成】 評価 【 B 】

目標に対する取り組みの成果がよく出ている。地域文化の継承やイベントへの参加などは今後も継続して学校の魅力の一つになってもらいたい。社会性の育成には、大人との関わりが大きく影響すると思います。教員だけでなく、色々な大人と関わる機会が増えるといい。地域も協力します。まずは、挨拶と掃除の定着を(指示されてやるのではなく、自主的にできるレベルへ)

【チーム学校】 評価 【 A 】

それぞれの取り組みについて、十分な成果が上がっていると思う。高校の魅力発信や部活動の充実など、教職員の皆さんのご尽力で橿原高校は素晴らしい教育活動をされていると思います。一方で、先生方の負担が過多になっていることもあり、今後は寮のある高校に特化した教員の配置など、働き方改革に繋がる県の動きに期待します。学校教育・部活動指導に加え、寮の対応・お仕事があり大変さを想像しました。まさにチーム学校として職員の皆さんで取り組まれていると感じました。多様な教職員を一つの方向性に向かわせるのには、何人かのキーマンの育成・確保が必要。寮という特殊な存在に対して、よく取り組まれていると思います。

(評価)A:目標を十分に達成　B:目標をほぼ達成　C:やや不十分　D:不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	**★確かな学力** ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 **★自己の将来とのつながりを見通した学び** ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○C層以上の生徒の増加 ・1年:(51.9)%→(60)% ・2年:(42)%→(52)% ○授業外学習時間の増加 ・県オリジナルアンケート「あなたは授業外で平日の1日平均、どの程度勉強しますか」:2時間以上と回答する生徒12名以上(R6:10名) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」:肯定的回答83%以上(R6:81.3%)	①オリエンテーション等で学ぶ意義や学び方について定期的に指導 ②各教科でICT機器の効果的活用を目指した授業研究 ③基礎力診断テストの分析を授業づくりへ活用。 ④スタディドリルやGoogleworkspaceを活用した自主学習時間の拡張。	C	○C層以上の生徒の増加(4月実施) (1)1年:51.9%　(2)2年:38.3% ○授業外学習時間の増加 ・第1回県オリジナルアンケート「あなたは授業外で平日の1日平均、どの程度勉強しますか」:2時間以上と回答する生徒1年1名2年2名3年5名　計8名 ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」:肯定的回答87.8%	①継続 ②すべての教科及び教員がICT機器を活用できている。→効果的な活用を目指した研究を継続 ③④継続するとともに、スタディサプリを活用した週明けテストを実施することで授業外学習時間の増加をはかる。	C	○C層以上の生徒の増加(11月実施) (1)1年:61.5%　(2)2年:41.7% ○授業外学習時間の増加 ・第2回県オリジナルアンケート「あなたは授業外で平日の1日平均、どの程度勉強しますか」:2時間以上と回答する生徒1年0名2年1名3年5名　計6名 ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」:肯定的回答80.9%	C層以上の生徒の増加は2年生が目標未達成。しかし、スタディサプリを活用した週明けテストの実施により、1・2年生とも中間時よりは向上。また、授業外学習の時間もスタディサプリの参加集計等を見ると増加傾向。取組は一定の成果。実態とアンケート結果に乖離が見られるので、アンケートの実施方法等が課題。
	社会性の育成	**★豊かな心、多様性・包摂性の尊重** ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○生活の中の満足度、幸福度の伸長 ・県オリジナルアンケート「自分という存在を大切に思える」:肯定的回答80%以上(R6:77.3%) ○将来についての見通しを持っている生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「将来の夢や目標を持っている」:80%以上(R6:78.1%)	①地域の事業、行事等への参加 ②インターンシップの実施 ③企業訪問、上級学校訪問の実施 ④探究型学習の機会を創出 ⑤ソーシャルトレーニング講座の実施	B	○生活の中の満足度、幸福度の伸長 ・県オリジナルアンケート「自分という存在を大切に思える」:肯定的回答79.1% ○将来についての見通しを持っている生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「将来の夢や目標を持っている」:75.7%	①生徒の負担にならないよう取捨選択して参加 ②2年生が夏季休暇中に実施 ③企業別・学校別説明会実施 企業訪問は2年生が修学旅行で実施 ④⑤総合的な探究の時間やLH等での取組継続	B	○生活の中の満足度、幸福度の伸長 ・県オリジナルアンケート「自分という存在を大切に思える」:肯定的回答79.1% ○将来についての見通しを持っている生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「将来の夢や目標を持っている」:79.1%	目標は一定達成。2年生の修学旅行での企業訪問は矢崎総業と東京海上日動。一方で学校訪問は時期的に専門学校のみ。次年度は大学への訪問、その次からは修学旅行の実施時期の検討が必要。
取組項目	地域協働学習	**【取組のねらい】** ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○地域について未来に伝えていける生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNS等を通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている」と回答する生徒の割合75%以上 ○地域へ貢献しようとする生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」と回答する生徒の割合75%以上	①津野山地域の文化・産業・環境等に関するプロジェクト型学習 ②職業学習や体験・奉仕活動等を通じた、地域振興に関する活動 ③情報発信に関する問題解決型学習	A	○地域について未来に伝えていける生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNS等を通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている」と回答する生徒の割合77.4% ○地域へ貢献しようとする生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」と回答する生徒の割合85.2%	①総合的な探究の時間にて地域学の実施を継続 文化班:神楽で伝承 環境・観光班:千枚田の管理 産業班:町役場観光協会との連携 ②脱藩マラソン運営参加 ③総探PR班:地域みらい留学、インスタ等での情報発信	A	○地域について未来に伝えていける生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNS等を通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている」と回答する生徒の割合75.7% ○地域へ貢献しようとする生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」と回答する生徒の割合93.9%	総合的な探究の時間の取組内容が少しマンネリ化。また、継続性や発展性が乏しく、実施内容や実施方法等、見直しを検討。
	教科横断的教育	**【取組のねらい】** ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定した授業 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成 ・「総合的な探究の時間」において各教科の学びが地域課題発見や解決に結びつけている成果物	①言語活動や情報活用能力を設定した授業改善 ②「総合的な探究の時間」で、各教科の学びを結び付ける	B	○言語活動や情報活用能力育成 各教科・科目でICT活用、ペアワーク、グループワークを実施 ○各教科の学びを課題発見等に結び付ける力の育成 総合的な探究の時間のYELL(各学年)の中間報告会実施	①を継続、ICT活用やグループワークなどの効果的活用の模索 ②総合的な探究の時間のYELL(各学年)と地域学(縦割り)の最終報告会を実施	B	○言語活動や情報活用能力育成 各教科・科目でICT活用、ペアワーク、グループワークを実施 ○各教科の学びを課題発見等に結び付ける力の育成 総合的な探究の時間の最終報告会実施(発表の改善)	授業デザインプロジェクトにおける授業改善研修について、プロジェクトメンバーによる事前検討の実施と研修内容を再検討。 総合的な探究の時間の発表方法等のさらなる改善。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	**★学校の魅力化・特色化** ○特色あるカリキュラム ○特色ある部活動 ○地域との協働的な学び	○魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・特色あるカリキュラム(総合的な探究の時間、遠隔授業等)および部活動等の成果物 ・高校の魅力:県外からの入学志願者8名以上 ・各種課外事業への参加 ○学校運営協議会等の実施回数:年2回	①総合的な探究の時間、遠隔授業および部活動等、特別活動の充実 ②こうち留学、地域みらい留学、地域コンソーシアム等の取組による生徒数確保 ③各種ボランティア活動への積極的参加 ④自治体、企業、大学等との連携事業推進	A	○特色あるカリキュラム 総合的な探究の時間中間報告会 遠隔授業(物理・数Ⅲ)補習(前期公務員対策　15回)の実施 部活動:アーチェリー部女子団体IH出場 ディスカバークラブ文教協会長賞 高校魅力広報 県外生の学校訪問:21組　県内地域外生:28組(体験入学まで)	①継続 ②オープンスクール随時受付 ③脱藩マラソンボランティア参加 ④東京海上日動によるキャリア教育講演会、2年修学旅行での企業訪問実施	A	○特色あるカリキュラム 総合的な探究の時間報告会 遠隔授業(物理・数Ⅲ)補習(前期公務員対策15回後期10回予定)の実施 部活動:アーチェリー部女子団体IH出場、ディスカバークラブ文教協会長賞 高知県高校生郷土芸能大会最優秀賞 高校魅力広報 県外からの入学志願者:フロンティア入試14名　A日程4名 ○学校運営協議会:年2回実施	部活動、特にアーチェリー部の部員確保。 高校魅力広報の充実。特に校内の広報体制の整備と県内生への広報の改善。
	不祥事防止	**★教職員の倫理観の堅持** ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的目標(指標) ・不祥事事案発生件数0 ○校内研修の実施回数:年6回(2か月に1度) ○不祥事防止委員会の実施回数:(2か月に1度)	①不注意事案発生の防止 ②ハラスメントについての理解徹底 ③法令遵守の意識現状課題 ④ダブルチェック ⑤日常の声掛け	B	○不祥事防止研修会4回実施 「不祥事根絶のための校内ルール」「交通安全」「近年報告された事案検証」「生徒性暴力」 ○不祥事防止委員会3回実施 「不祥事根絶のための校内ルール」「交通安全」「近年報告された事案検証」	不祥事防止委員会・研修会を9月～3月に3回実施 ・10月「わいせつ」12月「交通」 ・2月「体罰」 ・県内不祥事発生時臨時の委員会研修会実施	B	○不祥事防止研修7回実施 「教育長からのメッセージ」「ハラスメント」 ○不祥事防止委員会5回実施 「教育長からのメッセージ」 ○不祥事防止強化月間 6月:公文書について　12月:ハラスメントや児童性暴力等について ○職朝等での情報共有と注意喚起	今年度行った取組をベースに、取り扱う題材、研修の方法等を含め、次年度の不祥事防止計画を作成。
	働き方改革	**★長時間勤務の解消** ○時間外勤務の減少。年間360時間以内の達成	○休みやすい環境づくり ○時間外勤務の減少 勤務状況管理　月45時間、年360時間以内 ○ペーパーレス会議の推進	①育休や年休の取得奨励 ②部活動の練習方法の見直し ③寮業務の見直し ④ICTを活用した業務改善の取組 ⑤各種会議、行事の見直し、簡素化	B	○時間外勤務の減少 月平均27時間 月45時間以上　4名 ○ペーパーレス会議 職員会等で実施	①一定取得できている。継続して奨励 ②継続 ③町との役割分担等を含めた検討会実施 ④継続 ⑤継続、特に会議の種類・回数が増加しないよう検討	B	○時間外勤務の減少 月平均約26時間 月45時間以上　4名 年360時間以上7名 ○ペーパーレス会議 職員会等で実施	教員の退勤時間の設定やノー残業デーなどを検討。